

学校教育目標	心豊かである子 ・進んで学習する子 ・思いやりのある子 ・健康で明るい子
目指す学校像	「自ら考え、進んで行動する「強い子」の育成」 「凡事徹底 挑戦・感謝チーム田島」
重点目標	1 教育DXを活用し、学習者が主体的に学ぶ授業の実現 2 子どものWell-being実現のための心のサポート体制の充実 3 子どもの Well-being のための家庭・地域と連携した学校づくりの推進 4 子どもが安心・安全に過ごせる教育環境の整備 5 「新たな教師の学びの姿」を具現化する教員研修の充実

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

心のサポートに関する取組

地域とともに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

年度		学校自己評価				年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日令和8年2月5日	
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均を下回っているが、「国語や算数の勉強が好き」と肯定的な回答をする児童の割合は、全国・市平均より高い。 ○市調査において、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりできる」と肯定的評価をした高学年の割合は91.3%と高い。 <課題> ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、特に国語の「話すこと・聞くこと」の内容及び算数の「変化と関係」の領域についての設問を不得意とする児童が多い。 ○全国及び市の学習状況調査において、既習事項を活用することに課題が見られる。	・教育DXによる学びの自律化と個別最適化に向けた授業改善 ・子どもが自ら考え、学ぶ楽しさを実感できる授業スタイルの確立	①リーディングDX協力校として、教育DXによる個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実について各教員の実践事例の共有を行う。 ②ICTスキルアップに関する研修を実施する。	①各教員の実践事例の共有を行ったか。 ②学校評価「授業でタブレットをよく使っているか」(児)について肯定的評価の維持ができたか。(R6:95%→R7:95%)	①各教員が年2回の授業公開を実施し、Teams内で事例共有を行った。実践事例の共有書式について年度当初に提示をしたため、計画的に実践事例をまとめた教員もいた。 ②ICTを活用した「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指した実践を教職員一人あたり2回以上行った。学校評価「タブレット活用」(児)の肯定的評価は92.5%と概ね維持した。	A	・授業公開の約3割が3学期であったため、年度内の授業改善につなげるために実践を2学期までに行うよう計画する。 ・市研究委嘱3年目として、「個別最適な学び」と「協働的な学びの一体的な充実」について、よりよい実践を積み重ね市内に発信していく。	・低学年からICTを有効活用しており驚いた。先生方が日頃から工夫をして分かりやすく充実した授業を行っている。 ・タブレットの使い過ぎなどによる健康面での影響が心配である。 ・教科担任制は、子どもたちにより刺激となっており、続けてほしい。	
		・子どもが自ら考え、学ぶ楽しさを実感できる授業スタイルの確立	①学力向上カウンセリング訪問を実施し、各教員が本校の課題点を把握し、授業改善の視点をもつ。 ②複数教員で個々の児童のよさを見取り、各教員の専門性を生かせるよう全学級で担任以外の授業(一部教科担任制:田島スタイル)を実施する。	①学力向上カウンセリング訪問を実施し、各教員が授業改善の視点をもてたか。 ②全学級で担任以外の授業(一部教科担任制:田島スタイル)を実施したか。	①昨年度の反省を踏まえ、実施時期を早め8月中旬に調査結果の分析や学力向上カウンセリング学校研修を行った。それを踏まえ、授業改善の手立てを立てた。 ②高学年の教科担任制に加え、中学年でも学年内教科担任制を実施した。低学年は学期に応じて一部学年内教科担任を取り入れた。教師が教材研究を深めたり、児童に学ぶ楽しさを味わわせることにつなげたりした。	A	・学力向上カウンセリング学校研修は、次年度も同時期に実施し、調査結果に基づくPDCAサイクルを確立し授業改善に役立てていく。 ・「田島スタイル」による教科担任制を低・中学年において一層推進し、授業の質の向上を図っていく。		
2	<現状> ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」「いじめはどんな理由があってもいけない」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、どちらも全国・県平均を上回った。 <課題> ○不登校傾向の児童が多い。専門機関等への連携に加え、Solaの一むの持続的な運用について、引き続き検討の必要がある。 ○心と生活のアンケート結果等によると、自己肯定感の低い児童が多い。個別の課題を抱える児童を把握し、相談・支援を行っている。	・児童理解を基盤とした組織的な校内支援体制の充実 ・安心・安全に生活するための主体的な児童の育成	①ICTを活用した月1回の学校委員会(生徒指導・教育相談・特別支援教育、Solaの一む支援会議)により、継続的な状況把握や必要に応じた組織的な支援を行う。 ②スクールロイヤーによる教員研修及びいじめ防止のための特別講義の実施をする。	①情報端末を活用した学校委員会の開催及びアンケート結果や行動観察に応じた迅速・組織的な対応をしたか。 ②学校評価「いじめ防止」(保)の肯定的評価が向上したか。(R6:77.5%→R7:80%)	①情報端末の活用しながら、生活目標についての取組状況、児童の様子などの実態を振り返り、課題解決に向けて方策を協議した。必要に応じケース会議を開催し、組織的対応を図った。 ②学校評価におけるいじめ防止に関わる肯定的な保護者回答は60%と下降した。児童、地域からの回答はほぼ維持されている。	B	・いじめ予防への各種取組及びいじめ発生時の迅速、丁寧で組織的な対応を引き続き心掛けていく。同時に、いじめ防止への取組などについて積極的に保護者に発信をしていく。	・Solaの一むにおいて、デジタルとアナログを併用し工夫して受付しているシステムがよい。 ・学校、家庭、地域の三者で子どもたちの安心できる環境づくりをしていくことが大切である。 ・互いに意見を交わせる関係づくりが、大事である。	
		・安心・安全に生活するための主体的な児童の育成	①Solaの一むの支援方針について、昨年度の施行から見えてきた課題点を踏まえた改訂を行う。 ②情報端末による保健室の来室記録データにより、ケガの発生件数、場所等の把握を行い、健康・安全指導に生かす。	①Solaの一むの支援方針について実態に応じた改訂をしたか。 ②学校評価「健康教育」(児)の肯定的評価を維持したか。(R6:90%→R7:90%)	①Solaの一むにおける円滑な支援のために、職員室受付ボード・Solaの一むでのformsなどの把握システムを改訂した。また、ブース数を増やすなどの環境整備をした。依然として不登校傾向の児童が多いため、温かい学級づくりや保護者との連携などの未然防止に取り組んでいく。 ②保健室の来室記録データにより、ケガ等の発生件数や場所、来室の多い児童などが可視化され、健康・安全指導に生かすことができた。学校評価における健康教育に関わる肯定的な児童の回答は85%とやや下降した。	B	・Solaの一むの活用方法が一層多岐に渡るなか、人員確保が課題である。教職員の割振りを含め、検討をしていく必要がある。 ・来室記録データから、児童の心身の安全を把握することができた。今後は、おはようメーターを活用した安心・安全な生活を主体的にできる児童の育成に努めていきたい。		
3	<現状> ○学校運営協議会において目指す児童の姿について熟議を重ね、自ら考え進んで行動する児童の育成が図られている。 ○学校ホームページやSNSを活用し、教育活動の様子についての情報発信を積極的に行ってきた。 <課題> ○学校運営協議会の熟議を踏まえた協働活動の推進を図る必要がある。 ○地域人材(各種ボランティア)の高齢化に伴う減少傾向がみられる。	・学校運営協議会を基盤とした家庭・地域との連携 ・目指す児童の姿の地域全体への共有	①学校運営協議会の計画的な実施と、熟議内容の工夫を行う。 ②学校運営委員会に代表児童が参加する機会を設ける。	①学校運営協議会における熟議内容をHPに公開をしたか。(年3回) ②学校運営委員会に代表児童が参加する機会を設けたか。(年1回以上)	①学校運営協議会における熟議内容(子どもたちの姿、カリキュラムマネジメント、学校のきまり見直し実行委員会を取り上げ、それらの内容について学校運営協議会通信としてHPへ年3回掲載をした。 ②学校きまり見直し実行委員会の代表児童が動画の形で2回参加することができた。	B	・学校運営協議会に代表児童が直接参加し、双方向での意見交流ができる熟議テーマや活動を考えていく必要がある。	・きまり見直し実行委員会の取組報告では、児童が主体となって自分たちの学校生活をよくしようとしていることが発表からよく分かった。 ・児童の様子など、学校がHPなどを活用し地域に発信している様子が伝わった。授業参観時にも児童の頑張っている様子や教員のICTを活用した授業などが見られた。	
		・目指す児童の姿の地域全体への共有	①HP「児童の様子」の投稿などにより、積極的に教育活動の広報を行う。 ②学校運営協議委員への研究授業の公開をする。	①HP「児童の様子」の投稿を実施したか。(月3回以上) ②学校運営協議委員への研究授業公開を実施したか。(年2回以上)	①「児童の様子」を述べ62回HP掲載し、(1月17日現在)学校教育の様子を家庭・地域に発信した。(月7.3回 昨年度比1.7倍) ②学校運営協議委員へ12月総合、1月算数の研究授業を公開し、本校の研究の方向性を実際に見ていただいた。	A	・利便性の高いスクリーンに比べ、保護者にはHPブログ機能を利用した「児童の様子」の浸透度が低いため、発信の工夫をしていく必要がある。		
4	<現状> ○開校51年目となり、施設の老朽化が進んでいる。 <課題> ○近年、事務職員が単年度で変わっていたため、見直しをもった修繕計画や予算執行が不十分であった。	・快適で安全な教育環境の管理	①年度当初に怪我につながる危険箇所について管理職・事務職員と合同安全点検を実施する。 ②校長マネジメント予算を基に優先順位を付け、長期・短期で修繕計画の立案と計画的な予算執行を行う。 ③換気及び蜂などの侵入を防ぐ教室窓の網戸を複数年で計画的に設置する。	①管理職・事務職員と合同安全点検の実施をしたか。(4月) ②校長マネジメント予算を基に優先順位を付けたか。長期・短期で修繕計画の立案と計画的な予算執行をしたか。 ③教室窓の網戸の設置を計画的に進められたか。	①管理職・事務職員との合同点検を実施した。(4月) ②①の結果を基に、長期・短期での修繕計画を立案した。予算執行について、9、11月にも見直ししながら計画的に行い、トイレ洗面台修繕、エアコン洗浄、複合印刷機の導入等実現した。 ③網戸設置について、5か年計画とし今年度3教室に設置をした。	A	・引き続き、年度当初の管理職・事務職員との合同点検を行い、立案済の修繕に係る長期計画の見直しを含め、快適で安全な教育環境の構築を推進していく。	・子どもたちの安全や学習環境の改善の視点で見直しを行っている点が良い。今後も計画的に行ってほしい。	
		・快適で安全な教育環境の管理	①研修主任を核とした「個別最適な学びと協働的な学びの充実」についての組織的な学校研修による実践を重ねる。 ②当初面談を活用し、キャリアステージに応じた受講奨励の実施をする。	①指導者を招聘した年3回(市教研研修大会を含む)の研究授業と全教職員による公開授業を実施したか。 ②推薦研修を含め、当初面談を活用し、キャリアステージに応じた受講奨励の実施をしたか。(5月末、1月)	①市教委より指導者を招聘した年3回(市教研研修大会算数による課題研究中間発表を含む)の算数・総合の研究授業と全教職員により公開授業を行い、研修テーマの具現化に向けた実践を積み重ねた。 ②当初面談を活用した受講奨励を行い、各自がキャリアステージに応じた推薦研修、希望研修の受講をした。研修による変容や今後身に付けたい資質能力についてメタ認知することができた。	A	・2年間の研修の積み重ねや先行研究を生かしながら、市内に研究成果を発信していく。		
5	<現状> ○令和7年度文科省リーディングDX協力校かつ市教委委嘱「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実の研究指定の2年次である。 ○情報機器については、児童、教職員ともに積極的に活用している。 <課題> ○研究委嘱校として、児童に学びの主導権を委ねる実践を一層積み重ねる必要がある。 ○やりがいや満足感を感じている教職員は94%、負担感や多忙感を感じている教職員は88%と市平均程度であるが、時間外在校時間に個人差が見られる。	・個別最適な学びと協働的な学びの充実を実現する校内研修の実施 ・一人ひとりが働きやすく、働きがいのある職場づくり	①研修主任を核とした「個別最適な学びと協働的な学び」についての組織的な学校研修による実践を重ねる。 ②当初面談を活用し、キャリアステージに応じた受講奨励の実施をする。	①指導者を招聘した年3回(市教研研修大会を含む)の研究授業と全教職員による公開授業を実施したか。 ②推薦研修を含め、当初面談を活用し、キャリアステージに応じた受講奨励の実施をしたか。(5月末、1月)	①市教委より指導者を招聘した年3回(市教研研修大会算数による課題研究中間発表を含む)の算数・総合の研究授業と全教職員により公開授業を行い、研修テーマの具現化に向けた実践を積み重ねた。 ②当初面談を活用した受講奨励を行い、各自がキャリアステージに応じた推薦研修、希望研修の受講をした。研修による変容や今後身に付けたい資質能力についてメタ認知することができた。	A	・2年間の研修の積み重ねや先行研究を生かしながら、市内に研究成果を発信していく。	・研究テーマに沿い、教員が計画的に研修に取り組んでおり、その成果を授業公開の中で見る事ができた。 ・校長を中心に、1つ1つ丁寧に課題と向き合い対応する様子が伺えた。今後もチームとして田島小をよりよい学校にしていく。	
		・一人ひとりが働きやすく、働きがいのある職場づくり	①業務改善やメンタルヘルスの確認を含めた教職員との面談を実施する。 ②タイムマネジメントを意識するよう会議開催に当たり、開始時間・終了時間を明確にする。	①ストレスチェックにおける健康リスク値の維持(R6:男78女89→R7:80~90) ②各種会議開催に当たり、開始時間・終了時間を明確して会議を進行したか。	①10月に行った業務改善やメンタルヘルスの確認を含めた面談は、教職員の業務に対する思いをじっくり聞いて、有効であった。ストレスチェックにおける健康リスク値は、やや軽減した。(男:対象外、女:84) ②各種会議の開始時間・終了時間を明確に進行したことで、ほぼ時間内に効率的に会議を終えた。	A	・年間を通して、全教職員で業務改善の視点をもった方策を考え、チームとして助け合える職場づくりを実現する。		